

図画工作科学習指導案

題材名「雲をのぞいたその先に」

令和5年10月 6年 指導者 富山 亜紀穂

I 題材の構想

1 題材観

本題材は、モデリングペーストなどの下地材を使って雲を描きながら、雲の向こう側に見える景色を自分なりに想像して絵に表すものである。児童は、奥行きを出す方法の一つとして手前と奥の構図を工夫して描くことを知っている。しかし、実際の活動では、奥行きを絵に表すことに対する苦手意識が強く、うまく表現できないと感じている児童が多い。

題材の価値として、空は、児童が日頃見慣れているのでイメージしやすく、天気や時間によってその様相が変わるため、自分なりに表現したい空に合わせて多様な表現を試すことができる。

また、透視法などの教え込みによらず、児童自身が試行錯誤しながら雲の配置を工夫することで抽象的な表現の中でも奥行きを表現することができる。

材料の価値として、下地材は基本が白色で、そのまま扱っても児童の雲のイメージに近い表現になる。それに加えて、混色したり、多様な下地材の特徴を生かして、透明度や光沢感、質感を工夫したりできるため、夕暮れや夜空、曇り空などの多様な空の様子を表すこともできる。

また、下地材は硬化までに時間がかかるため、様々な角度から形を確認しながら、筆などで形を調整することができる。さらに、硬化した後も、追加したり、削ったりしながら全体のバランスを確認しながら試行錯誤することができる。

2 研究との関わり

題材の最後までねらいとする造形的な視点（配置と奥行き）を意識しながら自分の思いを実現させるための手立てとして、出会いの場面では、雲の向こう側に見えるものを想像して表すという題材の見通しをもてるように、雲フィルムで雲の配置を試しながら、主題に近い写真に重ねたり、実際の空や近くの様子を覗いたりする体験を通して、言語化する活動を設定する。

表す・広げる場面では、造形的な視点（配置と奥行き）に着目しながら自分なりに工夫して表すことができるように、途中の作品を展示して交流する活動を設定する。

振り返る場面では、造形的な視点（配置と奥行き）を基に、自分の意図した表現やこだわりを自認することができるように、毎時間記録した作品の制作過程を含めて振り返る活動を設定する。

3 題材の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">雲の向こうに見える景色を自分なりに表現する活動を通して、配置や奥行きなどの造形的な特徴を理解できる。 (〔共通事項ア〕)雲の配置を工夫して自分なりに空の奥行きを表現できる。 (A「表現」(2)イ)	<ul style="list-style-type: none">「私の西小♡な場所」では、学校のお気に入りの風景の構図を工夫して遠近感のある絵に表す経験をしている。モデリングペースト等の下地材を使って絵に表した経験はないが、一部の児童は絵の具の量や他のものを混ぜ立体感を出す工夫を知っている。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">配置や奥行きなどの造形的な特徴を基に、雲の向こうに広がるものを自分なりに発想できる。 (A「表現」(1)イ)配置や奥行きなどの造形的なよさや美しさを感じ取ったり考えたりしながら、見方や感じ方を深めることができる。 (B「鑑賞」(1)イ)	<ul style="list-style-type: none">空を描くとき、太陽ともこもこした定型の雲を描く児童が多く、自分なりに発想した表現になりにくい。「西小こびとずかん」では、手前から奥にもものが見える構図を考えて、こびとを発見したときの様子を写真に撮る経験をしている。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">雲の向こう側に景色を想像することを楽しんだり、空を表現する学習活動に進んで取り組んだりできる。	<ul style="list-style-type: none">友達作品の面白さを見付ける経験は多いが、自分の作品のよさを認める経験は少なく、自信がない児童が多い。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい雲と空を自分なりに表現する活動を通して、配置や奥行きなどの造形的な特徴を理解している。(知識) ・雲の配置を工夫して自分なりに空の奥行きを表現している。(技能)
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・配置や奥行きなどの造形的な特徴を基に、雲の向こうに広がるものを自分なりに発想している。(発想・構想) ・配置や奥行きなど造形的なよさや美しさを感じ取ったり考えたりしながら、見方や感じ方を深めている。(鑑賞)
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・雲の向こう側に景色を想像することを楽しんだり、空を表現する学習活動に進んで取り組んだりしている。

5 指導及び評価、ICT 活用の計画（全7時間：本時1第時）

過程	時間	<ul style="list-style-type: none"> ■ねらい □学習活動 ◎研究上の手立て ★ICT活用に関する事項 	知	思	態	<ul style="list-style-type: none"> ◆評価項目<方法(観点)> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
出会う	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ■造形的な視点（配置と奥行き）に着目して、題材の見通しをもつ。 □雲の映像を見て何が現れたら面白いかを想像したり、雲フィルムをつかって向こう側の様子を覗いたりする。 ◎雲の向こう側のイメージをもてるような写真や雲フィルムを使った体験活動。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆雲フィルム越しに景色や写真を見ながら、雲の向こう側に隠れた空間があるイメージを捉えている。 <観察・対話・ワークシート (知・思・態)>
<p>【題材の学習課題】 課題：雲の配置を工夫して、雲をのぞいた先に見えるものを想像してかこう</p>						
<p>本時のめあて 雲の向こう側ってどんな感じ？雲フィルムでのぞいてみよう</p>						
★写真・振り返り						
広げる・表す	2	<ul style="list-style-type: none"> ■雲の向こうに見えるものを想像して思い付く。 □空の写真を見て奥行きのある雲の配置を確かめながら、自分の表したいものをアイデアスケッチに描く。 ★写真・振り返り 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆雲の向こう側に見えたら面白いものを自分なりに発想している。 <観察・アイデアスケッチ(思・態)>
	3 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ■表したい思いに合わせて、造形的な視点（配置と奥行き）に着目しながら自分なりに工夫して表す。 □雲フィルムを重ねたり、作品を展示して交流したりしながら、自分なりに工夫して描く。 ◎造形的な視点に着目しながら作品を見直す展示スペースの設置。 ★写真・振り返り 	●	●	○	<ul style="list-style-type: none"> ◆雲の配置や奥行きなどの造形的な特徴を理解し、自分なりに想像した景色を工夫して表している。 <観察・対話・作品(知・技・思)>
振り返る	7	<ul style="list-style-type: none"> ■造形的な視点（配置と奥行き）に合わせて、活動を振り返る。 □作品や制作過程の記録を見合いながら、ワークシートに「どんな空を表したのか」「配置と奥行きの工夫」「満足度と理由」を記入する。 ◎造形的視点に基づいた学習過程の振 		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ◆雲の配置や奥行きに着目しながら学習活動を振り返り、自他の作品のよさを見付けている。 <観察・対話・ワークシート・作品 (思・態)>

	り返り。 ★ワークシート				
--	-----------------	--	--	--	--

II 第1時の学習

1 ねらい

造形的な視点（配置と奥行き）に着目しながら、雲の向こう側にもものや景色が見えるイメージをもつことができるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 本時の活動の見通しをもつ（導入7分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><題材の学習課題> 課題：雲の配置を工夫して、雲をのぞいた先に見えるものを想像してかこう</p> </div> <p>S：今回は雲の向こう側を想像して絵に表すんだな。 S：僕も迫力のある龍を描いてみたいよ。 S：その絵だと向こう側って感じがしないね。雲と龍が手前と奥になってないからじゃないかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて> 雲の向こう側ってどんな感じ？雲フィルムでのぞいてみよう</p> </div>	<p>◎題材の見通しがもてるように、雲の向こう側から龍が現れるアニメーションを視聴する。</p> <p>○雲の向こう側を想起できるように、空の映像を視聴し、何が表れたら面白いかを問う。 ◎雲の向こう側を想像する題材のねらいを明確にできるように、重なりのない絵を提示し奥行きを感じるかを問いかける。</p>
<p>2 雲フィルムをつくり、身近なものや覗いてみたい景色の写真に重ねて見る。（展開30分）</p> <p>S：さっきの映像にあった大きな雲をつくってみよう。 S：一つの雲だけじゃなくて、たくさんくっつけてみようかな。 S：フィルム越しに友達の顔を見たら、目だけがこっちを見ていてなんだか恐ろしいな。雲の向こうに巨人がいる感じだ。 S：僕は龍を描いてみたいから、タブレットで見つけた龍の絵に重ねてみたよ。雲に重なって見えないところに龍の体が隠れるよ。 S：雲の向こう側は、雲に隠れて見えないところがあって、全部は分からないんだね。</p>	<p>◎雲の向こう側に景色が見える感覚をつかめるように、つくった雲フィルムを写真に重ねたり、周囲を観察したりする活動を設定する。 ○自然な交流が生まれるように、作業机を輪になるように配置する。 ○どうしても雲フィルムをつくれないう児童には、実際の空を観察したり、タブレットで空の写真を検索したりしながら自分のつくってみたい雲の配置を見つけるよう促す。 ○雲の向こう側を見るとはどんなイメージなのかを言語化できるように、覗いたり写真に重ねたりして気付いたことは何かを問う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆評価項目 ◆雲フィルム越しに景色や写真を見ながら、雲の向こう側に隠れた空間があるイメージを捉えている。 <観察・対話・作品（知・思）></p> </div>
<p>3 本時の活動を振り返る。（終末8分）</p> <p>S：雲の向こう側は、雲に隠された先って感じだね。龍を雲に隠すようにして描けばよさそうだよ。 ★作品の記録・振り返り。</p>	<p>○造形的な視点で振り返ることができるように、つくった雲フィルムを撮影し、雲の向こう側について気付いたことを言語化する。</p>

3 板書計画 (ICT端末の画面をテレビに画面共有)

雲をのぞいたその先に

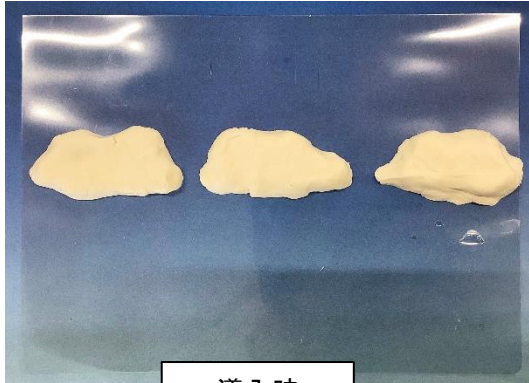
課題：雲の配置を工夫して、雲をのぞいた先に見えるものを想像してかこう

めあて
雲の向こう側ってどんな感じ？雲フィルムでのぞいてみよう

III 備考

1 参考作品 (教師試作)

雲フィルム (ラミネートフィルム、紙粘土)



導入時



配置と奥行きを工夫したもの

○配置の工夫と効果の例 (下地材、キャンバスペーパー、水彩絵の具)



中心に向かって雲が小さくなるように配置
中心部に吸い込まれるような奥行き



雲が徐々に薄くなるように配置
風が奥に向かって流れるような奥行き



手前と奥で大小に差をつけた雲を配置
大きな雲の向こう側に空が広がる奥行き



作品例

3 場の設定

